

告 辞

本日ここに、多数のご来賓、保護者の皆様のご臨席を頂きまして、平成23年度三重短期大学学位記授与式を挙行するにあたりましてご挨拶を申し上げます。

今ここに、栄えある短期大学士の学位を受けられました295名の皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんが今日の晴れの日を迎えられましたことは、皆さん一人ひとりが日々精進を重ねてこられた結果であり、心からお喜び申し上げます。

そして、これまで皆さんの成長を心から願ってこられましたご家族の皆様に対しまして、お喜びを申し上げますとともに、東福寺学長をはじめ、これまで指導をしてこられた本学の関係者に短大設置者として敬意を表します。

さて、卒業生の皆さんは、本学の学生として勉学に励まれただけではなく、学校行事やクラブ活動に積極的に参加されるなど、かけがえのない数多くの経験をされたことでしょう。

私もさまざまな機会を通じて皆さんとお目にかかりました。

昨年7月の自治体行政特論の講義では、まちづくりに関するお話をいたしました。津市の未来を担う皆さんのその真剣な眼差しを拝見し、大変心強く感じました。

また、11月に開催された市内四大学生と高校生の皆さんとの座談会においては、中心市街地の活性化についてご提案いただき、新鮮なアイデアをお聞きすることができました。

さらに12月には、三重大学との連携のもと、大門大通り商店街で開かれた一日限定のカフェでは、皆さんが調理した特製カレーセットを美味しくいただきながら、若者ならではの豊かな発想によるまちづくりの一端を見せていただくことができました。

これまでのさまざまな経験とその中で感じられた喜びや悩み、培われた友情は、皆さんの学生生活をより豊かに彩り、人格的にも社会的にも大きく成長させてくれたことと思います。

これから皆さんはそれぞれ新しい道へ進まれ、仕事に就く人、新たに4年制大学に編入して勉学を続ける人もいらっしゃいますが、いずれの道へ進まれるとしても、その経験は皆さんにとって大きな糧であり、今後の皆さ

んをしっかりと支えてくれるものだと思います。

さて、皆さんが過ごされた２年間は、日本にとって激動の時でもあり、特に昨年発生しました東日本大震災と震災に伴う原子力発電所の事故は、まさに未曾有の国難であり、今もなお、多くの方が不自由な生活を余儀なくされ、不安な毎日を過ごされています。

私も昨年６月に現地へ赴き、かつて勤務した経験のある宮城県内の被災状況を目の当たりにし、自然の脅威をまざまざと感じました。

また、知人が津波に翻弄されたという厳然たる事実にもくらくらむ思いがしました。

しかし、そのような状況の中、この困難を乗り越えていくんだという気持ちで協力し合う被災地の皆さんのお姿を拝見した時、お互いに励まし合い、支え合うといった人と人との絆、そして相手を思いやる気持ちの大切さを感じ、人は自分の力だけではなく、多くの人に支えられていることに改めて気付かされました。

卒業生の皆さん、どうか本学を通じて出会った人との絆を大切にしてください。皆さんはこれから乗り越えなければならない幾多の壁にきっとぶつかります。

しかしその時、皆さんが得た貴重な出会いや多くの人との交流で生まれた深い絆は、必ず今後の人生においてかけがえのない財産となります。

その財産を大切にし、今できることは何かを絶えず考えながら、自らの考えでしっかりと道を切り開いていってください。

また、本学は今年で創立６０周年を迎えますが、これから皆さんが旅立とうとする社会には、すでに１万７千人を超える本学の卒業生が、既に大きな信頼を構築し幾多の実績を築いておられます。

諸先輩方は、必ずや皆さんを温かく迎え入れてくれることでしょう。

そのことを忘れず、本学で学ばれたことを誇りに、自信を持って大いに活躍されますことを心よりご期待申し上げます。

卒業生の皆さんの輝かしい未来を心よりお祈り申し上げ、告辞といたします。

平成 24 年 3 月 20 日

津市長 前葉 泰幸